

校長室だより **サザンクロス** 平成29年(2017年)1月31日
 アブダビ日本人学校 SOUTHERN CROSS [南十字星] 文責 梶山明彦

ちよっといひ話

世界のCOMMON SENSE 国際理解教育

数年前、狂牛病で牛肉が輸入禁止になったことがありました。「吉野家」や「すき家」に牛丼を食べに行き、店に入った私は、「牛丼はありますか」と尋ねました。牛丼屋に入って「牛丼はありますか」とは、各地の競馬場内の吉野家以外では、牛丼が食べられなくなるということで、日頃はそれほど満員ではない街の牛丼屋も満員でした。いかにも日本的でおもしろいですね。その時私も牛丼にありつけてホッとしました。その後狂牛病がおさまると、また牛丼屋や焼き肉屋は満員になりました。「喉元過ぎれば……」で、これも日本人らしいですね。《牛丼は私の命の恩人で、東京で一人暮らしの学生時代、お金がなくて、安い牛丼(その頃300円だったと記憶しているので、今の方が安い。)を一週間食べ続けた思い出があります。》つまり、今の日本は外国の影響を瞬時に受けてしまう。外国とのつながりや友好なくしては生活もおぼつかないということでしょうか。

外国で起こることは、他人事ではなく、ニュースを見るたびに、なぜこうなるのか、関心を持ってその国や地域の歴史的背景やイデオロギー等を考える必要がありますね。日本の常識がどの国にもあてはまるわけではありません。私がいたマレーシアでは、道を渡る時、すごい交通量の中、いつまで待っても渡れないので、まず車の間を縫うように道の半分まで渡り、同じように隙を見て残り半分を渡る。これが常識でした。また、日本人学校の授業で、普通日本では、植物は日なたに置くと良く育つと教科書に書いてありますが、赤道直下のマレーシアでは、「日なたに置くと枯れてしまうので日陰に置きましょう。」と教える。このようなことを学習するのが国際理解教育です。本校の子どもたちは自然に身をもってこの国のことや世界の国のこと、そしてそこに住む人々のようすや心情を学習しています。これらを糧に将来、世界のどこにいても国際感覚を身に付けた社会人に成長してくれたらと思います。

1月2月3月は、あっという間に過ぎていきます。もう明日から2月。学年もあと一月半になりました。みんな頑張った運動会が終わり、もうすぐ最後の大きな学校行事「翔鷹祭」が待っています。これが終われば、みんな一つずつ上の学年になります。3月4月は、別れがあったり出会いがあったりめまぐるしい季節です。思い出をたくさん作りましょう。



書き初め



百人一首大会



個人戦
山本さん優勝

団体戦 G2優勝



運動会

走って踊って頑張りました。リリカさんがアブダビ1速い女性に!



先生たちも頑張りました。

